

令和2年度 第1回 横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 令和2年12月8日（火） 10時30分～12時00分

2 場 所 横浜市研修センター604・605号室

3 出席者 丸山 宏 委員長、石田 麻子 委員、伊藤 裕夫 委員、箕口 一美 委員

4 欠席者 田中 操 委員

5 傍聴者 無し

6 議事内容

<p>議題</p>	<p>1 定足数の確認 2 委員会の公開・非公開について 3 議題1：令和元年度業務評価 4 議題2：指定管理者選定関係資料 5 その他</p>
<p>議事・ 委員意見等</p>	<p>1 定足数の確認 「横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱」第7条第3項に基づき、委員数5名のうち4名の出席により定足数を満たしており、会議の成立を確認した。</p> <p>2 委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「議題1：令和元年度業務評価」の審議については公開、「議題2：指定管理者選定関係資料」の審議については非公開とした。</p> <p>3 議題1：令和元年度業務評価 (1) 指定管理者による自己評価 指定管理者から、令和元年度の実績及び自己評価についての説明があった。 (2) 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価の要点について説明があった。 (3) 委員による評価 委員から指定管理者に対する評価内容の説明及び質問を行った。</p> <p>《評価内容の説明》 「総合評価」について 【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全般的に経営状況、事業内容に関して、総合力を生かしたオリジナリティーのある企画が充実しており、非常に素晴らしい内容だった。コロナ禍における取組として、ウェブを使ったものを含めて非常に新しい工夫がされており、高く評価したい。 ・ 改修のための長期休館が予定されていたため、施設のホールを使わない、外へ出ていく事業を昨年から意識的に行ってきた。実際の休館時にこれらの準備が生きると思う。ホールが、ホール無しで事業を行うことを奇貨として来年度も是非続けていただきたい。

- ・政策協働型というシステムが一定の方向性が見えてきていると思われる。

【更なる取組を期待する点】

- ・横浜市、神奈川県、日本を代表するホールとして、現在よりも一つ上の段階の国の助成金に挑戦していただきたい。
- ・地域の住民の方との距離感が縮まっていくことが期待される。くっきりとしたホールのイメージづくりをお願いしたい。
- ・コロナ禍において、職員のメンタルヘルスに打撃を与えている。職員の今後のケアをじっくりやっていただきたい。
- ・クラシック音楽に関する観客は全般的に減少しており、そのような方々に対する取組もやるべきである。これはホールを使って行うものだけではなく、日常的な活動の中で、例えば、商業施設との連携、あるいは横浜の他の地域、住宅地域に対するアプローチも考えてほしい。
- ・このホールのための人材を育て、かつ、その人が国内のみならず海外にも顔が見えるような仕事の仕方ができる、そういう体制に近づきつつある。休館期間中、様々な都市のパフォーミングアーツセンターの人の配置の比較を行い、自分たちの体制を横浜モデルとして形にさせていただきたい。

4 議題2：指定管理者選定関係資料について

事務局から選定スケジュールと選定方法（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団を非公募（単独指名）により選定）について説明を行い、了承された。選定スケジュールは、令和2年3月に、選定に係る委員会を第1回目として開催したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、スケジュールを遅らせることとし、今回、改めて審議いただくものである旨についても了承された。

続いて、事務局から選定関係資料（選定要項、業務の基準、提案課題、評価規準項目等）の説明を行い、委員の意見交換を行った。管理業務等に関する資料については、事務局に一任することを確認した。

【主な委員意見及び事務局回答】

(1) 選定時期及びスケジュール

- ・意見なし

(2) 選定関係資料全般

- ・コロナに関しては誰も想定ができなため、どのような記載であっても、それが違うとも言い切れない。項目を設けることは良いと思うし、長期化した場合の想定が文言に書かれていればよい。
- ・横浜市の政策との関連性についてはどこに記載するか。
→提案課題及び様式集の「様式9」に記載する。
- ・横浜市の政策の中に、横浜みなとみらいホールがどう位置づくか、横浜市がどう考えるのか重要なところである。横浜みなとみらいホールがどこに向かっていくのか期待している。今まででもどかしい思いもあり、次の5年間でうまく達成できるよう、市の色々な協議、指導もあると思うので期待したい。
- ・使命6の横浜みなとみらいホールのプレゼンスの向上を図るといふ文言はとても重要である。
- ・自主事業だけでなく、利用者とのつながりをどのように作っていくかということも重要であり、使命2の定量指標2「プロフェッショナルのオーケストラ、アーティストの指定管理者主催以外の公演数」は重要な指標である。貸

	<p>館の利用者の方には、利用料金としての収入を確保する他、共に音楽文化を作っていくパートナーという側面があり、今後、もっと強化してもよい。特にコロナ禍において、貸館利用者の方との関係性が、キャンセル料だけでおさまらない部分も問われていくのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホール運営において、支出の在り方は大きくは変わらないと思われるが、収入の見立てを抜本的に変えていかなければ、この先、施設運営が成り立たなくなるのではないかと。横浜みなとみらいホールは、改修工事の休館中にその部分の立て直しを図れないかと。 →今後、そもそもの収入構造が成り立たなくなってくると、どうやってこの施設を維持していくのかという本質的な問題に関わってくる。維持水準を見直す可能性もあるかもしれない。 ・指定管理期間が5年というスパンになるため、施設運営については、ある程度見込んだ動きを決めたほうがよい。 ・公共ホールとして、パブリックにサービスを提供する場所として、もう一つ向かなければならない方向として芸術の世界がある。公共ホールはどのような役割を果たすのか。お金の部分とホールとして芸術の世界、少なくともその接点であるところのホール運営において、この2方向を矛盾することなく、お金の問題とアーティストをどう支えていくか。ウィズコロナの時代の使命7では指標無しとしているが、どのようにするか。 →最終提案書の提出前に、応募者と協議する場がある。その場で深めていきたい。 <p>(3) 管理業務等に関する資料の取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見なし <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
<p>審議結果</p>	<p>「議題1：令和元年度業務評価」については、本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。</p> <p>「議題2：指定管理者選定関係資料」については、選定要項、業務の基準、提案課題、評価規準項目についての各委員の意見を踏まえ、委員長と調整を行ったうえで確定する。確定した選定関係書類は、各委員に送付するとともに本市ウェブサイトで公表を行う。</p> <p>また、議事録については委員長確認後に確定のうえ、公表する。</p>